

第59期

# 株主通信

2019年4月1日 ▶▶▶ 2020年3月31日



麻生フォームクリート株式会社

証券コード 1730

## 業績ハイライト

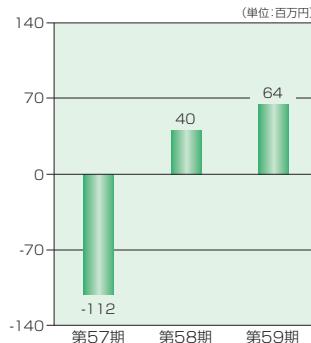
■ 受注高 (単位:百万円)



■ 売上高 (単位:百万円)



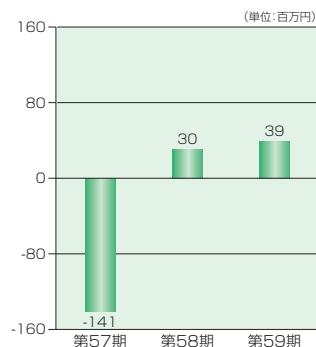
■ 営業利益又は営業損失 (単位:百万円)



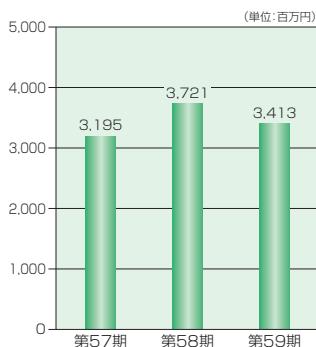
■ 経常利益又は経常損失 (単位:百万円)



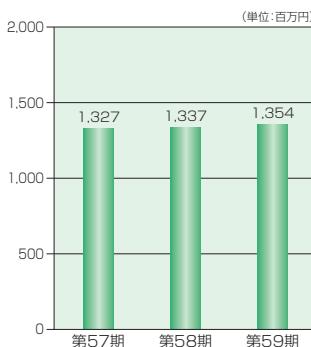
■ 当期純利益又は当期純損失 (単位:百万円)



■ 総資産 (単位:百万円)



■ 純資産 (単位:百万円)

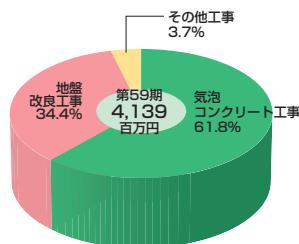


■ 1株当たり純資産 (単位:円)



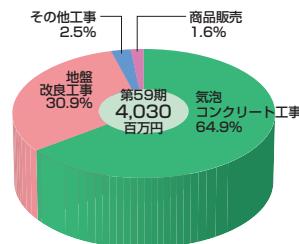
■ 受注高内訳及び構成比 (単位:百万円)

	第59期
軽量盛土工事	1,593
管路中詰工事	551
空洞充填工事	415
気泡コンクリート工事計	2,559
地盤改良工事	1,425
その他工事	153
計	4,139



■ 売上高内訳及び構成比 (単位:百万円)

	第59期
軽量盛土工事	1,557
管路中詰工事	656
空洞充填工事	404
気泡コンクリート工事計	2,617
地盤改良工事	1,247
その他工事	100
商品販売	64
計	4,030



## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

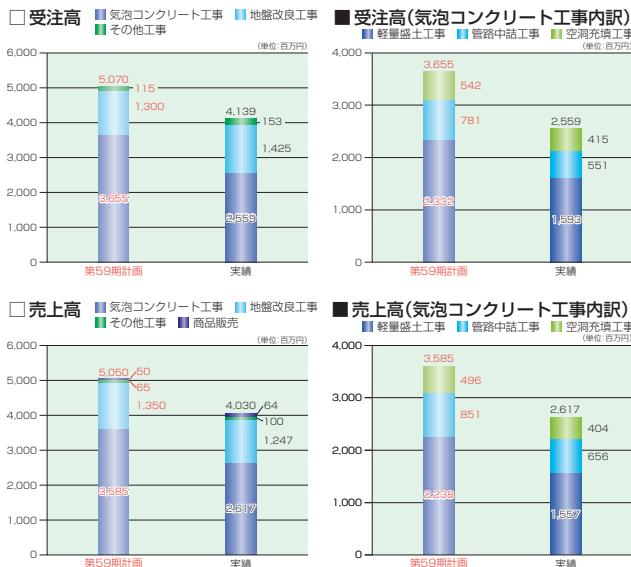
第59期株主通信をお届けするに当たりご挨拶申し上げます。

第59期事業年度におきましては、東京オリンピック・パラリンピック需要がピークとなり、また、国土強靱化のための3か年緊急対策等震災及び災害対策事業が進むなか、引き続き建設投資は堅調に推移し、建設業界においては良い事業環境が続きました。

このような状況下、第59期事業年度は大きな問題もなく推移いたしました。上期には大型案件の失注や、下期に入り予定していた案件が期ズレするなど、当初見込みに対し受注高、売上高におきまして約2割減、営業利益におきましては約4割減という結果となり、情報収集などの営業活動に課題を残す年度となりました。

第60期事業年度は、前事業年度から推進している気泡コンクリート工事と地盤改良工事の営業及び施工の一体化に関して、更なる融合をはかることでそれぞれの業務効率を向上させ、受注拡大と利益確保に取組んでまいります。また、施工管理及び与信管理のみならず、想定されるリスクへの対応を強化するとともに、企業価値の向上のため、引き続き経営テーマとしての「技術開発の促進及び新たな技術導入による効率化」「提案営業強化による市場の創造」「徹底したコスト管理」「人材確保と施工体制の強化」に取組んでまいります。さらに生産性

### ■第59期事業の概況



の向上をはかるため、i-Constructionの推進とそれに伴うICTの活用を実現するのに必要な技術開発にも尽力してまいります。

今後とも株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



### ■次期の見通し

第60期事業年度の建設業界におきましては、建設投資は堅調に推移することが見込まれております。専門工事業者である当社にとりましては、引き続き受注価格競争が予想され、厳しい経営環境が続くと思われませんが、営業展開の強化と施工効率の向上に取組み、受注量の確保と収益性の改善に努めてまいります。

次期の業績につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が不透明な所もあり油断は出来ませんが、主力の気泡コンクリート工事が軽量盛土工事・管路中詰工事を中心に需要が見込まれ、また地盤改良工事も堅調な需要が見込まれることから、受注高4,707百万円、売上高4,700百万円、営業利益110百万円、経常利益115百万円、当期純利益80百万円を見込んでおります。

(注) 上記の予想は、本株主通信作成時において入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おきください。



代表取締役社長  
花岡 浩一

## 財務諸表（要約）

## 貸借対照表

(単位：千円)

区 分	第58期 2019年3月31日現在	第59期 2020年3月31日現在	増減額 (対前期)
<b>資産の部</b>			
流動資産	2,049,323	1,787,848	△261,475
固定資産	1,672,488	1,625,523	△46,965
有形固定資産	1,385,020	1,357,603	△27,417
無形固定資産	12,167	11,232	△935
投資その他の資産	275,300	256,687	△18,613
資産合計	3,721,812	3,413,371	△308,441
<b>負債の部</b>			
流動負債	1,696,742	1,436,250	△260,492
固定負債	687,625	622,579	△65,046
負債合計	2,384,368	2,058,829	△325,539
<b>純資産の部</b>			
株主資本	1,337,666	1,360,388	22,722
資本金	209,200	209,200	—
資本剰余金	180,400	180,400	—
利益剰余金	949,596	972,341	22,745
自己株式	△1,529	△1,552	△23
評価・換算差額等	△222	△5,846	△5,624
純資産合計	1,337,443	1,354,541	17,098
負債・純資産合計	3,721,812	3,413,371	△308,441

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

(単位：千円)

区 分	第58期 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)	第59期 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)	増減額 (対前期)
売上高	4,282,536	4,030,373	△252,163
売上原価	3,491,480	3,292,879	△198,601
売上総利益	791,056	737,493	△53,563
販売費及び一般管理費	750,588	672,845	△77,743
営業利益	40,467	64,648	24,181
営業外収益	16,133	10,804	△5,329
営業外費用	7,142	5,601	△1,541
経常利益	49,457	69,851	20,394
特別利益	698	—	△698
特別損失	8,569	2,022	△6,547
税引前当期純利益	41,587	67,828	26,241
法人税、住民税及び事業税	16,823	16,503	△320
法人税等調整額	△5,306	11,511	16,817
当期純利益	30,069	39,813	9,744

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

区 分	第58期 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)	第59期 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)	増減額 (対前期)
営業活動による キャッシュ・フロー	390,834	11,426	△379,408
投資活動による キャッシュ・フロー	△37,929	△136,881	△98,952
財務活動による キャッシュ・フロー	△8,429	△85,664	△77,235
現金及び現金同等物 の増減額(△は減少)	344,475	△211,119	△555,594
現金及び現金同等物 の期首残高	374,839	719,315	344,476
現金及び現金同等物 の期末残高	719,315	508,195	△211,119

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(単位：千円)

第59期 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	株主資本										評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・ 換算差額 等合計		
		資本 準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金							利益剰余金 合計	
					別途 積立金	固定資産 圧縮積立金	繰越利益 剰余金						
当期首残高	209,200	180,400	180,400	24,050	885,000	909	39,637	949,596	△1,529	1,337,666	△222	△222	1,337,443
当期変動額													
剰余金の配当							△17,069	△17,069		△17,069			△17,069
固定資産圧縮積立金取崩						△105	105	—		—			—
当期純利益							39,813	39,813		39,813			39,813
自己株式の取得									△22	△22			△22
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)											△5,624	△5,624	△5,624
当期変動額合計	—	—	—	—	—	△105	22,850	22,744	△22	22,722	△5,624	△5,624	17,097
当期末残高	209,200	180,400	180,400	24,050	885,000	803	62,487	972,341	△1,552	1,360,388	△5,846	△5,846	1,354,541

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ■ 第59期決算のポイント

## ポイント①受注高

地盤改良工事の受注高は、一部見込んでいた大型工事の失注がありました。建築分野を中心にHYSC杭工法などの受注が順調だったことや、気泡コンクリート工事と地盤改良工事の営業の一体化の効果も徐々に表れたこともあり、前事業年度比84.8%増(計画達成率109.6%)となりました。気泡コンクリート工事の受注高は、当初見込んでいた大型工事の発注遅れなどにより前事業年度比27.1%減(計画達成率70.0%)となったことから、その他工事を含めた工事全体の受注高は前事業年度比5.2%減(計画達成率81.6%)となりました。

## ポイント②完成工事高

地盤改良工事の完成工事高が、受注高の大幅増から前事業年度比41.7%増(計画達成率92.4%)、また管路中詰工事も前事業年度からの繰越工事が多かったことから、完成工事高は前事業年度比11.7%増となりました。受注高の大幅な減少や一部大型工事の工期のずれ込みもあり軽量盛土工事の完成工事高が前事業年度比18.5%減、また空洞充填工事の完成工事高も前

事業年度比44.9%減となり、気泡コンクリート工事全体の完成工事高が前事業年度比19.0%減(計画達成率73.0%)と大幅に減少したことから、その他工事を含めた工事全体の完成工事高は前事業年度比5.7%減(計画達成率79.3%)となりました。

## ポイント③完成工事総利益率

地盤改良工事より利益率が高い気泡コンクリート工事の完成工事高が前事業年度に比べ大幅に減少し、また完成工事高での構成比も前事業年度に比べ10.8%低下しましたが、施工の効率化による工事原価の低減に努めた結果、完成工事総利益率は前事業年度に比べ0.15ポイントの低下に止まりました。

## ポイント④営業利益

売上総利益は、売上高の減少により前事業年度に比べ53百万円減少した737百万円(計画達成率89.4%)となりました。販売費及び一般管理費が前事業年度に比べ77百万円減少(前事業年度は貸倒損失118百万円を計上)したことから、営業利益は前事業年度に比べ59.8%増(計画達成率57.2%)となりました。

## トピックス

### 1. エアモルタルの基礎研究

近年、大規模災害の頻発などによりインフラの耐震性能が強く求められてきております。当社は「エアモルタルのパイオニア」としてエアモルタルの物性についての基礎研究に取り組んでおります。



共鳴振動によるエアモルタルの試験の様子

### 2. 各団体との共同試験

FCB工法の課題解決及びエアモルタルの用途拡大のために各団体との複数のプロジェクトに取り組み、第59期事業年度は各プロジェクトにおいて基礎実験や試験施工を行い、良好な成果が得られました。今後も引き続きFCB工法の進化及びエアモルタルの市場拡大を推し進めてまいります。



試験施工の様子（一例）

### 3. 設備投資

近年、国土強靱化やインフラ整備の旺盛な需要に対応すべく計画的な設備投資を進めております。また生産性向上のためのICTへの投資も引き続き行っております。



第59期事業年度投資の地盤改良施工機（パワーブレンダー工法）

## ■ 会社概要 (2020年3月31日現在)

会社名	麻生フォームクリート株式会社
本社所在地	神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号
従業員数	103名
設立	1961年(昭和36年)6月1日
資本金	2億920万円
事業内容	気泡コンクリートの現場施工 地盤改良工事の施工 その他工事の施工及び工事施工用資材 (起泡剤等)の商品の販売

## ■ 役員 (2020年6月25日現在)

代表取締役社長	花岡 浩一
取締役	福原 章介
取締役	長谷川 隆敏
取締役	井上 喜博
取締役	杉山 嘉則
常勤監査役	阿部 新太郎
監査役	沼田 紳介 (独立社外役員)
監査役	大瀨 理
監査役	大木 章史 (独立社外役員)

## ● 主な工事経歴

注文者	工事名
日特建設株式会社	東関東自動車道塔ヶ崎工事
株式会社不動テトラ	常磐自動車道鳥の海工事
株式会社守谷商会	談合坂スマートIC
日特建設株式会社	浦添西原線道路改良工事 (H30-7)
南生建設株式会社	平成31年度川辺川農業水利事業東幹線水路閉塞工事



東関東自動車道での地盤改良工事  
(HYSC杭工法)

## ■ 株式の状況 (2020年3月31日現在)

■発行可能株式総数	普通株式	12,080,000株
■発行済株式の総数	普通株式	3,413,769株 (自己株式6,231株を除く)
■一単元の株式の数		100株
■株主数		1,238名 (うち議決権を有する株主数990名)

### ■ 大株主

株主名	所有株式数(株)	所有株式数の割合(%)
株式会社麻生	1,420,000	41.59
株式会社麻生地所	400,000	11.71
麻生商事株式会社	300,000	8.78
宗教法人萬福寺	232,300	6.80
株式会社三井住友銀行	60,000	1.75
株式会社福岡銀行	60,000	1.75
株式会社西日本シティ銀行	60,000	1.75
麻生フォームクリート従業員持株会	41,900	1.22
麻生興産株式会社	40,000	1.17
麻生 泰	40,000	1.17

(注) 所有株式数の割合は自己株式(6,231株)を控除して計算しております。

## ● 支店・営業所

東京支店	神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号
大阪支店	大阪府茨木市沢良宜西4丁目15番14号
福岡支店	福岡県糟屋郡須恵町大字須恵714番地1
札幌営業所	北海道札幌市中央区北一条西16丁目1番地27 北海道たばこ会館ビル4F
東北営業所	宮城県仙台市太白区泉崎1丁目32番20号 プレミア泉崎102号室
東京営業所	東京都千代田区神田駿河台3丁目3番 お茶の水伊藤ビル2F

## ■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
及び特別口座の 三井住友信託銀行株式会社  
口座管理機関

郵便物送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)

### ○住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ○未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## ■ ホームページのご案内

麻生フォームクリートはホームページ上でも各種IR情報を発信しております。ぜひご活用ください。

<https://www.asofoam.co.jp/>



 **麻生フォームクリート株式会社**

神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号

お問い合わせ先 TEL044-422-2061(代表) 財務経理部